

The Metaphysics of Dispositions and Its Applications

Intrinsic Finks, Neuroethics, and Free Will

オーガナイザー： 海田大輔（京都大学）

提題者： 海田大輔（京都大学）

Kai-Yuan Cheng (National Chung-Cheng University, Taiwan)

山口尚（京都大学）

本ワークショップのテーマは、傾向性(disposition)の形而上学的問題について論じるとともに、傾向性の形而上学における諸議論を脳神経倫理学や自由意志論といった他分野に応用する可能性を探ることである。

角砂糖の持つ「水溶性」は、＜水に入れる＞という条件のもとで＜溶ける＞という顕現をもたらす性質として特徴づけることができる。このように、その特徴づけのなかに顕現と顕現条件とが本質的に含まれるような性質を、「傾向性」と呼ぶ。一方、同じ角砂糖の持つ「立方体である」という性質は、角砂糖が端的に持つ性質であり、その特徴づけのなかに顕現と顕現条件とが本質的に含まれることはない。このような性質を「カテゴリカルな性質」と呼ぶ。すべての性質は、傾向性とカテゴリカルな性質の二種類に分類されるように思われる。しかし、本当に二種類の性質が存在するのだろうか。一方が他方に還元されるか、あるいは一方が消去されるかして、本当は一種類の性質しか存在しないことになるのではないか。もしそうなら、本当に存在するのはどちらの性質だろうか… こうした問題について論じるのが傾向性の形而上学である。現代哲学において傾向性が主題的に論じられるようになったのは比較的最近のことであり、解明すべき問題は数多く残されている。傾向性の問題は現代形而上学における最重要課題の一つであると言えるだろう。

もっとも、傾向性の問題の重要性は、現代形而上学という分野の内部にとどまるものではない。それは、心の哲学、脳神経倫理学、自由意志論といった他分野への応用という点でも大きな重要性を持つと考えられるのである。本ワークショップにおいてわれわれは、傾向性の形而上学的問題の解明に向けて何らかの貢献をするとともに、傾向性の形而上学の持つ豊かな応用可能性についても強調したいと考えている。

なお、本ワークショップは、日本と台湾の形而上学研究者の間に将来にわたる協力関係を築くための足掛かりとなることが意図されており、提題者の一人として台湾から Kai-Yuan Cheng 氏を招待して行われる。提題・質疑応答はすべて英語で行われる予定である。

ワークショップの構成は以下の通りである。

まず海田は、傾向性の形而上学について概括的な解説を行ったうえで、傾向性の形而上学における一つの問題 —— 内在的フィンク(*intrinsic fink*)の可能性 —— を掘り下げて論じる。フィンクとは傾向性の顕現を妨げる要因のことであり、傾向性を条件文によって分析するさいの障害となる。条件文分析を改良することによって「外在的」フィンクを取り扱うことは可能になるが、「内在的」フィンクは依然として問題であり続ける。こうした状況のなか、「内在的フィンクなるものがはたして存在しうるのか」ということが、最近、一部の形而上学者の間で論じられている。海田は、内在的フィンクの可能性を否定する Choi, Cohen, Handfield 等の議論を取り上げ、批判し、最終的に、内在的フィンクの存在を主張する実在論的な傾向性主義の擁護を試みる。

次に Cheng は、海田の論じた「内在的フィンクの可能性」をめぐる議論を、脳神経倫理学の論争に応用することを試みる。脳神経倫理学においては、「脳神経科学の成果は、〈責任〉概念がもはや人間行動に適用できないことを示している」と主張する立場（行動的道德主義）とそれに反対する立場との間で論争が続いている。Cheng は、行動的道德主義の代表として Sinnott-Armstrong の論考を、それに反対する立場の代表として Farahany の論考を取り上げ、両者の対立点を傾向性の形而上学のリソースを用いて明らかにしたうえで、Sinnott-Armstrong の主張を擁護する。

最後に山口は、傾向性の形而上学的分析を自由意志の問題に応用することを試みる。自由意志をめぐる議論では、「リバタリアンの自由概念ははたして整合的でありうるか」という問題が論じられてきた。山口は、整合的なリバタリアンの自由概念は「傾向性としての自由」という概念構成を必要とすることを指摘する。山口は、行為者性を説明する哲学的な立場をヒューム主義・法則論的実在論・傾向性主義の三つに分類したうえで、全二者は整合的なリバタリアンの自由概念を提示できず、傾向性主義だけが整合的なそれを提示できると論じる。